

2020年4月

何ごとも世の中「一寸先は闇」とはけだし名言ですね。

今思えば昨年12月、すでに中国の武漢市では、世界中の人々をとんでもない運命に陥れつつある「新コロナ・ウィルス」が深く静かに人間社会を侵食し始めていたとは。しかも、その情報は中国政府（中国政府は地方政府が適切に情報を公開しなかった、と言ってますが・・・）が公開せず、忠告した医師を罰するという、恐ろしい反応を示していたとは。

私たち日本人の反応も鈍かったですね。ボチボチ漏れてきていますが、日本の政府中枢の反応も鈍かったようです。そして、クルーズ客船が横浜港に着いたときから、「非常事態」という言葉自体が嫌われているこの国の弱いところが出てきてしまったのでしょうか。

本来、政府が対応すべき事柄なんでしょうが、神奈川県が医療関係の手配や人員の派遣までやると黒岩知事は相当頭にきているようです。それから、マスコミはほとんど報道しませんでした。自衛隊はこの舟にのべ2千5百人の医療関係者を含むスタッフを派遣して派遣隊員からは一人の感染者も出さず国の役割の一端を立派に果たしたようです。

なぜか、世界保健機構（WHO）のトップは1月の時点で台湾から武漢で未知の感染症が蔓延し始めている、との情報を公式書簡で連絡されていたにもかかわらず反応しませんでした。中国との人的交流が強いイタリアやフランスなどから、見る間に全ヨーロッパにひたひたと広がって行き、医療崩壊から悲惨な事態を招いてしまった国もでていきますね。1月に情報を得ていながらこの手のことに無知な大統領が何も動かず、米国は、特にニューヨークは悲惨なことになってしまいました。アフリカ、中南米も心配ですね。

そして日本では毎日発表される感染者数は日をおって増加の勢いを増し、「アレヨ、アレヨ」という間に心配な数字となってきました。ようやく、総理大臣から法律に許さず非常事態宣言がなされましたが、政権中枢の人たち

がどこまで実相を理解しているのか、心配なしとしません。

その一方、早くも、「コロナ騒動」が終了した後の世界は、米国と中国が激しく互いの勢力を競い合うトゲトゲした時代を迎える、と心配した声も聞こえてきます。

それよりも、今は日本が、この、1945年の敗戦後最悪ともなり得る事態を解決して、経済の再建に進み、人々が平穏に暮らせる国に戻ってほしいと願うばかりです。うまく言えませんが、1945年以降、先輩や私たちが進めてきた「日本の道」が誤っていなかった事を願うばかりです。

それにしても、「自分だけで生きている」とか、「自分は一人で生きている」などと滑稽な思い違いだけは一日も早く日本の隅々までなくなることを心から祈るばかりです。もし、こうした考えの人が一人でもいたら、この国に明るい世の中は来ないでしょう。そんなことは、あってはならない事だと改めてはっきりと申し上げておきます。